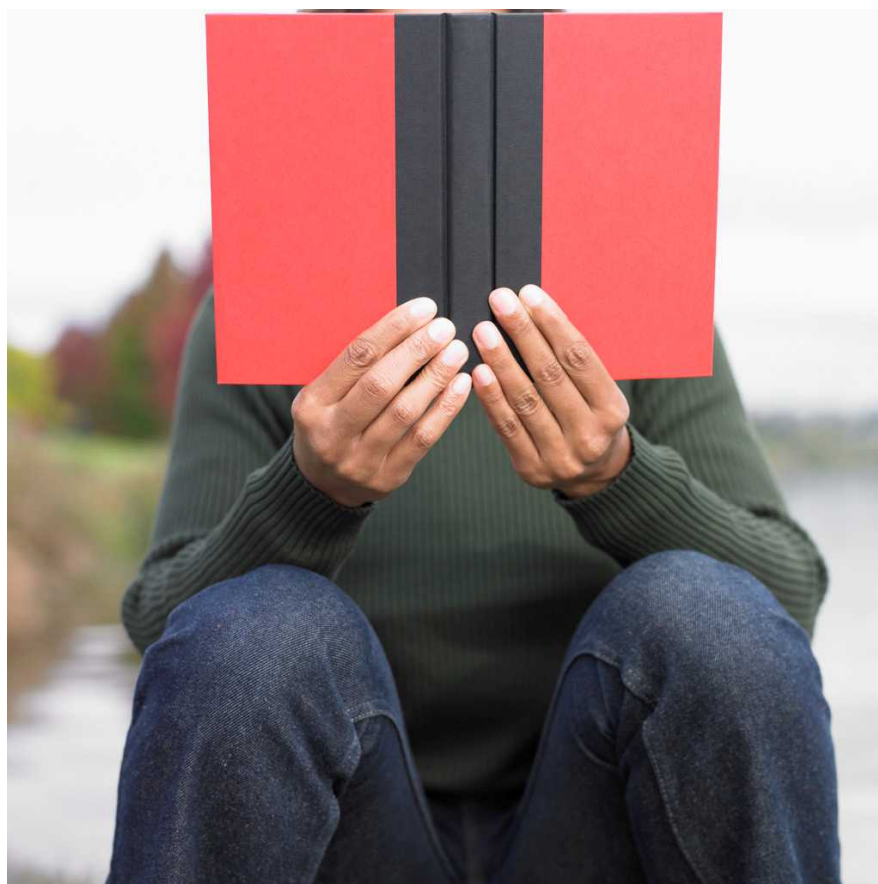


夢ひろがり 活力あふれる

豊かな心の創造

きのこの里読書プラン



～ 愛別町読書活動推進計画 ～

愛別町教育委員会

「夢ひろがり活力ある豊かな心の創造 きのこの里読書プラン」

愛別町読書推進計画

1. はじめに

現在の社会環境では、テレビ・携帯電話・インターネットなどの発達により、いつでも誰もが簡単に欲しい情報や必要な情報を得ることができるようになり、生活スタイルや価値観が多様化しています。情報により利便性が向上した反面で、テレビ、インターネット、携帯電話の見過ぎや依存、ゲームのし過ぎなどにより、文字や活字から遠ざかっていることが問題視されています。

このような状況から、国では、「子どもの読書活動の推進にかかる法律」が施行され、北海道においても「次代を担う子どもの心をはぐくむ北の読書プラン」を策定し、全市町村での読書活動推進計画の策定により、すべての子供たちがあらゆる機会と場所において、自主的に読書活動ができるよう、積極的に環境整備を図ることになっております。さらに国は、2010年を「人類は文字・活字によってその英知を後世に伝えてきた。さらに発展させ、心豊かな社会の実現につなげていくことは、この世に生きる我々が負うべき重大な責務である」とのことから、「国民読書年」として、読書活動を推進しております。

これらに基づき、子どもたちだけでなく、すべての町民が読書活動を行うことで、夢がひろがり、活力があふれ、豊かな心が創造できるように「愛別町読書活動推進計画」を策定します。

2. 計画の方針

「愛別町に住むすべての町民がいつでも自主的に読書活動を行える環境の整備」

読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにすることができ、私たちが成長していくうえで、本との関わりを避けて通ることができません。

特に、これからの時代を担う子供たちが健やかに成長するためには、考える力を培い豊かな情操を養い、幅広い知識を習得するためには、幼少期からの読書習慣を身につけることが大変重要です。

本計画では、愛別町に住むすべての町民がいつでも自主的に読書活動を行うことができるよう、環境の整備を図ることを基本方針として、読書活動を積極的に推進します。

3. 現状と課題

愛別町の読書活動の現状は、公民館図書室と自動車文庫「a i - a i」を中心とする

図書の貸し出し、ブックスタートによる絵本の配布、ボランティアによる読み聞かせ、各個人による書店などからの本の購入などにより実施されていますが、町民一人当たりの読書量はあまり多くはないと思われ、図書室と自動車文庫「a i - a i」による図書貸出量は町民一人当たり1.88冊と少なく、特に成人の図書室等の利用は、一部の利用者に限られているのが現状です。

また、幼児センター・小中学生を対象としたアンケートでは、「本が好き」「読書を良くする」と答えた子どもが2/3以上と多くおり、ブックスタート事業等の効果が現れてきていますが、成長とともに読書をしなくなっている調査結果となっています。

このような現状から、家庭・学校・地域が一体となった読書活動の推進と推進するための環境整備が必要です。

幼児センター・小学生・中学生を対象にしたアンケート結果

(平成22年4月実施)

	読書が好きですか？	家庭でも読書をしますか？	
		よく読む・時々読む	月に3冊以上読む
幼児センター	49人(83%)	33人(56%)	
小学校低学年	50人(71%)	60人(86%)	
小学校高学年	52人(70%)		54人(73%)
中学生	44人(52%)		27人(32%)
合計	195人 (68%)	174人 (60%)	

4. 推進目標

(1) 読書活動の推進

家庭における読書活動の推進

読書活動の一番の活動場所となる家庭は、乳幼児期の読み聞かせによる「言葉の学び」に始まり、小中学生での「表現力・理解力・感性・創造力の向上」、成人における教養力の充実、高齢者の音読による認知症予防など、読書活動による効果が大きく期待できることから、生活の一部としての読書活動に重点をおき、ゆとりある読書活動を推進します。

- ・生涯学習だより「図書室だより」による図書紹介の充実
- ・ブックスタート事業の推進と年齢に応じた図書の紹介

(1歳6カ月・3歳児検診)

学校等における読書活動の推進

子どもの成長に合わせた読書の指導は、読書習慣を身につけるためには重要であり、幼少期から小学生期における良質の本との出会いは、興味・関心を広げ、中学生・高校生期における読書は、自我の確立に大きな影響を与えるものであります。

幼児センター、小中学校でも読書機会を広げるために、図書の紹介や貸し出し、朝読書等を実施していますが、公民館図書室と連携を図り、よりよい読書活動ができるように推進していきます。

- ・朝読書の推進
- ・ボランティアを活用した読み聞かせなどの推進
- ・学校図書室と公民館図書室の連携

地域における読書活動の推進

誰もがいつでも読書活動ができるためには、家庭・学校等での読書活動だけでは、長期的な読書活動の定着を望むことができません。そのためにも、地域全体での読書活動の意義や重要性を理解することが大切です。

読書活動を定着させるためにも、愛別町独自の読書推進月間を設定し、読書に関する事業と組み合わせ読書活動への意識の向上と蔵らでの月1回の読み聞かせや乳幼児検診・ブックスタートでの読み聞かせを行っていただいている読み聞かせ会へのサポートと新たなボランティアの発掘をしていかなければなりません。

また、公民館・教育委員会社会教育事業として、本や読書活動にふれあう時間の提供をしていきます。

- ・読み聞かせ講座などの読書活動の推進
- ・読み聞かせなどのボランティアの育成
- ・読書推進月間の設定、絵本まつり、古本市などの開催

(2) 読書活動を推進するための環境整備

公民館図書室等の充実・整備

公民館図書室と自動車文庫「ai - ai」での図書の貸し出し事業は、すべての町民が本と出会い、読書を楽しむことができる場を提供するとともに、町民の皆さんがふれあうことのできる和やかな場となるよう、多くの町民の皆さんに利用いただけるために、蔵書の充実を図り、優良図書の紹介や本を探しやすく、快適に読書ができる明るい図書室整備を推進します。

- ・アンケートやリクエストによるニーズの把握
- ・公民館図書室・自動車文庫「ai ai」の蔵書充実

読書活動の推進体制の整備

読書活動をしていくと多種多様なジャンルの本があり、町民すべての要求に対する本を図書室等に蔵書するには無理があります。この多種多様な要求にこたえるためには、道立図書館が行う市町村活動支援事業の活用と近隣市町村図書館との相互貸借などを利用し、少しでも多くの利用を頂けるようにしていきます。また、読み聞かせの会などの活躍の場と交流の場が提供できるよう推進します。

- ・ 道立図書館や旭川中央図書館などとの連携
- ・ 他市町村読み聞かせ関係団体との交流